



プロフィール
 細田 雄一 Yuiichi Hosoda
 所属：グリーンタワー・稲毛インター
 生年月日：1984年12月6日(27歳)
 身長/体重：176cm / 62kg
 血液型：B型
 出身地：徳島県三好市池田町
 第16回アジア競技大会 金メダル



トライアスロンでロンドンオリンピック出場を目指す

細田 雄一選手に聞く

毎日毎日を大切にすること、1分1秒を大切にすること。
 それが未来につながっていく。



でも本当に自分がもらっている刺激のほうが大きいんです。全日本合宿前のこの徳島駅伝では、スピード・スプリント力をつけるということとを目標に考えていたので、現時点で自分の持っている100%の力を出し切れたと

——徳島駅伝を走られての感想や徳島駅伝への思いなどを教えてください。
 中学生などの頑張っている走りや表情を見て、逆に僕のほうが刺激をもらいました。自分は特別な人間でもないし、ただ、トライアスロンの選手としてはだれにも負けなという自負がありますが、一人の人間としてはまだまだです。ただこの駅伝を通して、勝ちたい気持ちも大切ですが、結果じゃなく頑張ること、一生懸命取り組むこと、自分に負けないところなどを見てもらえたら、そして走りを通じてお伝えできればと思います。

——いよいよ4月7日から千葉県館山市で行われるオリンピック選考会が間近に迫ってきましたが、オリンピック出場に向けての思い、子どもたちや市民の皆様へのメッセージなど頂けますか。
 北京オリンピックでの悔しさを忘れずにこの4年間ロンドンオリンピックに向けて、トレーニングを積んできました。レースの時、苦しい時は、自分が育った三好市のまち、よく遊んだ丸山公園からの風景、支えてくれてる三好市の方々を思いながら頑張りたいと思います。
 また、子供たちには、夢に向かって頑張っている人間が三好市にも身近にいるんだよということを知ってもらいたいんです。1分1秒を大切に一生懸命頑張っている姿を見せたいと思います。
 必ず出場権を勝ち取り、8月7日には三好市民の皆様に応援をもらいたいと思います。その時は、ぜひよろしくお願います。



県内16郡市が参加し、1月4日から6日にかけて健脚を競った、新春恒例の第58回徳島駅伝。三好市駅伝チームは3日間を懸命のたすきリレーを展開し、昨年の順位をひとつ駆け上がり、13位と健闘しました。今大会は、昨年のチームを主体に、世界大会で優勝、準優勝に輝いたラフティンク女子チーム「リバーフェイスク」から阿部主将ら4選手や市内に活動拠点を置く国土交通省の白井さんら転勤族の選手も加わり、郷土愛を胸に43区間257・3キロの阿波路を駆け抜けました。
 そうした中、2年連続の区間賞(31区)に輝き、トライアスロン競技男子ではアジア大会で金メダル、日本ランキング1位と、今ロンドンオリンピック日本代表の最有力候補となっている細田雄一選手に、徳島駅伝への思いやオリンピックへの意気込みを聞ききました。

新春に懸ける熱き戦い 第58回徳島駅伝

三好市チームは13位

